

CITIZEN

2020年度（2021年3月期）  
第3四半期決算説明会

---

シチズン時計株式会社  
2021年2月10日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

広報・IR担当の古川です。

本日はご多用のところ、当社第3四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

## 2020年度第3四半期（10-12月期）実績

- 全事業の黒字化を達成
- 主力の時計事業、工作機械事業が想定を上回る

## 2020年度通期業績予想 上方修正

- 売上高 2,040億円（前回予想比+20億円）
- 営業利益 ▲105億円（前回予想比+35億円）
- 経常利益 ▲65億円（前回予想比+35億円）
- 当期純利益予想は据え置き

## 営業キャッシュフロー

- 営業キャッシュフローは第3四半期累計でプラスに転換

2

それでは、今回の決算の主なポイントについて説明させていただきます。

第3四半期決算は減収減益とはなったものの、主力の時計事業、工作機械事業が見通しを上回る実績となり、デバイス事業、電子機器他事業も含め、全事業セグメントで営業黒字となりました。

また、第3四半期の業績上振れを受け、通期業績予想の修正をいたしました。売上高を20億円、営業利益を35億円、経常利益を35億円、それぞれ上方修正いたしました。

それから、営業キャッシュフローにつきましては、業績が回復したことに加え、在庫削減が進展した効果もあり、第3四半期累計期間でプラスに転換となりました。

## 2020年度第3四半期（10-12月期）業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	3Q		前年同期比	
	2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
売上高	805	621	▲22.8%	▲183
営業利益	54	21	▲60.2%	▲33
営業利益率	6.8%	3.5%	-	-
経常利益	65	34	-	▲30
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	▲4	-	▲38
為替レートの影響	¥109/USD ¥120/EUR	¥105/USD ¥124/EUR	-	-

- 新型コロナウイルスの影響を受けるも回復傾向を辿り、時計事業・工作機械事業が想定を上回る
- 投資有価証券売却益等、特別利益17億円を計上
- 割増退職金や新型コロナウイルスによる損失等、特別損失46億円を計上

3

続いて、第3四半期（10－12月）業績概要をご説明いたします。









売上高は、621億円、前年比22.8%の減収となりましたが、第2四半期に比べると減収幅は縮小しております。

時計事業では、中国が好調に推移した他、低迷が懸念された北米が健闘し、見通しを上回る着地となりました。また、工作機械事業も、中国が増収となった他、欧州向の売上が伸び、利益率が改善し見通し比で上振れました。

その結果、営業利益は21億円と黒字転換となり、経常利益は補助金収入もあり、34億円となりました。

なお、投資有価証券売却益など特別利益17億円を計上、また、特別損失としては、割増退職金や新型コロナウイルス関連の損失など、46億円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、4億円の損失となりました。

## 2020年度第3四半期（10-12月期）セグメント別業績推移 CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)		3Q	3Q	前年同期比	
売上高		2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
 時計事業		459	336	▲26.8%	▲123
 工作機械事業		143	117	▲17.8%	▲25
 デバイス事業		145	119	▲18.2%	▲26
 電子機器他事業		56	47	▲15.2%	▲8
合 計		805	621	▲22.8%	▲183
<b>営業利益</b>					
 時計事業		48 (10.5%)	15 (4.6%)	▲67.9%	▲32
 工作機械事業		16 (11.6%)	8 (7.6%)	▲46.3%	▲7
 デバイス事業		5 (3.7%)	3 (2.8%)	▲37.6%	▲2
 電子機器他事業		▲0 (▲0.9%)	3 (7.0%)	-	+3
消去又は全社		▲14	▲9	-	+5
合 計		54 (6.8%)	21 (3.5%)	▲60.2%	▲33

4

第3四半期のセグメント別業績推移について、ご説明いたします。

時計事業は、売上高、前期比26.8%減の336億円、営業利益は前期比67.9%減の15億円となりました。

工作機械事業は、売上高、前期比17.8%減の117億円、営業利益は前期比46.3%減の8億円となりました。

デバイス事業は、売上高は前期比18.2%減の119億円、営業利益は前期比37.6%減の3億円となりました。

電子機器他事業は、健康機器が好調に推移し、売上高は宝飾事業の撤退もあり前期比15.2%減の47億円ですが、営業利益は3億円となりました。

## 2020年度第3四半期（4-12月期）累計連結業績概要 CITIZEN

(単位：億円)	1-3Q			前年同期比		
	2019年度実績			2020年度実績	増減率	増減額
売上高	2,249			1,511	▲32.8%	▲738
営業利益	112			▲60	-	▲172
営業利益率	5.0%			▲4.0%	-	-
経常利益	124			▲26	-	▲150
親会社株主に帰属する四半期純利益	70			▲219	-	▲289
為替レートの影響	¥109/USD ¥121/EUR			¥106/USD ¥122/EUR	-	-

- 市場環境は引き続き回復傾向にあるものの、主に時計事業と工作機械事業が減収
- 広告宣伝費を中心に経費を抑制し、188億円の販管費を削減
- 第2四半期に繰延税金資産の一部取崩しを実施

5

続きまして、第3四半期累計期間（4月-12月）における連結業績です。

売上高は、1,511億円、前期比32.8%の減収となりました。

営業利益は、販管費を188億円削減しましたが、減収による減益要因をまかないきれず、60億円の損失となりました。

経常利益は26億円の損失となりました。

なお、第2四半期決算において繰延税金資産の一部取り崩しを行ったことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は219億円の損失となりました。

## 2020年度第3四半期(4-12月期)累計セグメント別業績推移 CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)	1-3Q	1-3Q	前年同期比	
	2019年度実績	2020年度実績	増減率	増減額
<b>売上高</b>				
■ 時計事業	1,183	717	▲39.4%	▲465
■ 工作機械事業	451	325	▲28.1%	▲126
■ デバイス事業	439	332	▲24.3%	▲106
■ 電子機器他事業	174	135	▲22.1%	▲38
合計	2,249	1,511	▲32.8%	▲738
<b>営業利益</b>				
■ 時計事業	82 (7.0%)	▲38 (▲5.3%)	-	▲121
■ 工作機械事業	62 (13.8%)	14 (4.6%)	▲76.2%	▲47
■ デバイス事業	12 (2.9%)	▲7 (▲2.3%)	-	▲20
■ 電子機器他事業	0 (0.1%)	+1 (1.1%)	+993.9%	+1
消去又は全社	▲45	▲31	-	+14
合計	112 (5.0%)	▲60 (▲4.0%)	-	▲172

6

セグメント別の4-12月期累計期間の業績はご覧の通りになります。  
読上げは省略させていただきます。

## 2020年度 下期及び通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度予想 (11/12)		2020年度予想 (2/10)		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,130	2,020	1,150	2,040	+20	+20
営業利益	▲ 57	▲ 140	▲ 22	▲ 105	+35	+35
営業利益率	▲5.1%	▲6.9%	▲1.9%	▲5.1%	-	-
経常利益	▲ 38	▲ 100	▲ 3	▲ 65	+35	+35
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 84	▲ 300	▲ 84	▲ 300	+0	+0
為替レートの	¥105/USD ¥125/EUR	¥106/USD ¥123/EUR	¥105/USD ¥124/EUR	¥106/USD ¥122/EUR	-	-

■ 第3四半期までの業績を踏まえ、時計事業と工作機械事業を中心に上方修正

7

今期の連結業績予想の修正について、通期ベースで説明します。

時計事業の第3四半期の上振れを加味した他、工作機械事業の受注回復が想定を上回ったこと、またデバイス事業、電子機器他事業も利益が改善したことを受け、売上高を前回予想から20億円引き上げ2,040億円、営業利益は35億円引き上げ105億円の損失となりました。

経常利益につきましても、35億円引き上げ65億円の損失となりました。

また、当期純利益につきましては、製造設備等の減損損失の可能性を考慮し、前回予想の300億円の損失を据え置きました。

なお、第4四半期の為替レートは1USD=105円、1EUR=125円の前提を変更しておりません。

## 2020年度 下期及び通期セグメント別業績予想

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)	2020年度予想 (11/12)		2020年度予想 (2/10)		前回予想比増減	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高						
■ 時計事業	578	960	573	955	▲ 5	▲ 5
■ 工作機械事業	232	440	247	455	+15	+15
■ デバイス事業	231	445	236	450	+5	+5
■ 電子機器他事業	86	175	91	180	+5	+5
合計	1,130	2,020	1,150	2,040	+20	+20
営業利益						
■ 時計事業	▲ 41 (▲7.1%)	▲ 95 (▲9.9%)	▲ 26 (▲4.6%)	▲ 80 (▲8.4%)	+15	+15
■ 工作機械事業	5 (2.2%)	11 (2.5%)	19 (7.7%)	25 (5.5%)	+14	+14
■ デバイス事業	▲ 2 (▲0.9%)	▲ 13 (▲2.9%)	0 (0.4%)	▲ 10 (▲2.2%)	+2	+3
■ 電子機器他事業	1 (2.1%)	0 (0.0%)	3 (4.2%)	2 (1.1%)	+2	+2
消去又は全社	▲ 21	▲ 43	▲ 20	▲ 42	+1	+1
合計	▲ 57 (▲5.1%)	▲ 140 (▲6.9%)	▲ 22 (▲1.9%)	▲ 105 (▲5.1%)	+35	+35

- 時計事業：新型肺炎の再拡大を受け売上高は弱含みとなるが、利益改善を見込む
- 工作機械事業：受注の回復は想定を上回っており、売上高、営業利益ともに上振れる見込み

8

セグメント別の修正後の通期業績予想です。

時計事業の売上は、第3四半期に上振れしたものの、第4四半期の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、やや下方に調整しました。

営業利益は第3四半期の上振れ分を加算しております。

工作機械は受注の拡大を受け、第4四半期を売上、利益ともに上方修正、デバイス事業、電子機器他は第3四半期の業績の結果を受け、上方に微調整しております。

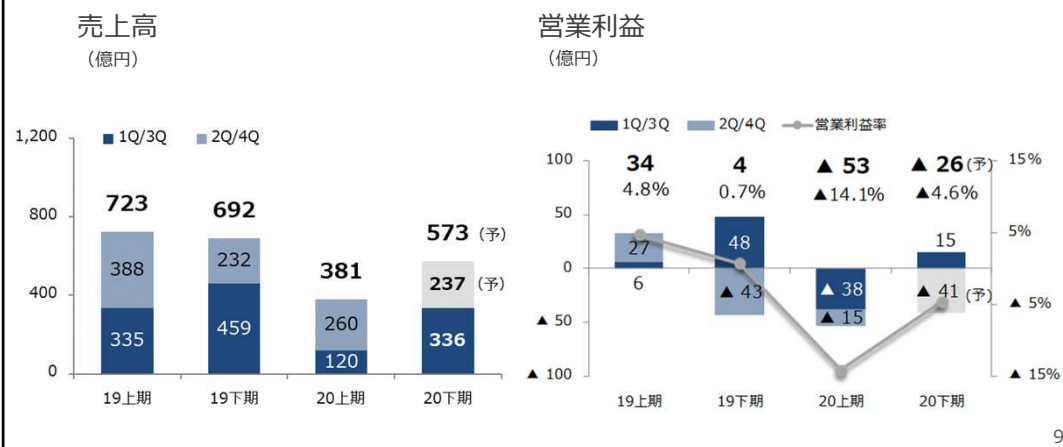


<完成品販売>

- 海外市場：中国が前期比増収となった他、北米も想定を上回る推移
- 国内市場：インバウンド需要の激減が響いたが、減少幅は縮小傾向

<ムーブメント販売>

- 機械式が堅調継続、アナログクォーツも徐々に回復



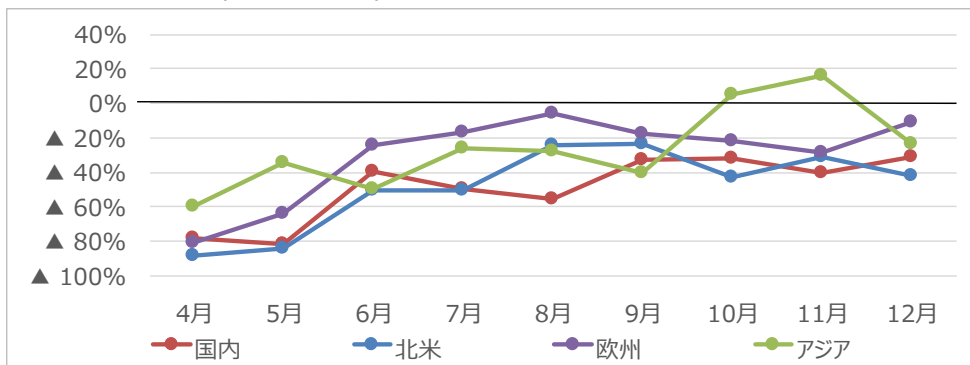
それでは事業別の第3四半期(10-12月)の概況をご説明いたします。  
 まず、時計事業です。

完成品販売は、中国がECイベントで大きく増収となるなど全体を牽引し、また、流通の仕入れ調整が懸念された北米においてセルスルーが好調に推移したためセルインが順調に進むなど、売上は見通しを上回りました。欧州もロックダウンが開始される中、見通しを達成。

国内は、感染拡大が進むにつれ消費が弱含み、郊外店舗が健闘するも、見通しをやや下回る結果となりました。

ムーブメント販売は、引き続き機械式ムーブメントの売上が堅調に推移しました。アナログクォーツも多機能製品を中心に徐々にではありますが、回復傾向にあります。

■ 前年同月比増減率(現地通貨ベース)



■ 前年同期比増減率(現地通貨ベース)

	1Q	2Q	3Q	
国内	▲69%	▲46%	▲35%	インバウンド需要の落ち込みと内需の低迷を受け、回復に遅れ
北米	▲73%	▲30%	▲38%	実店舗販売は苦戦するも、EC販売が下支えとなり回復傾向維持
欧州	▲57%	▲15%	▲22%	ドイツ等が堅調に推移するも、ロックダウンの再実施により停滞
アジア	▲48%	▲33%	▲3%	中国でECイベント向き販売が活況を呈するなど、回復基調

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。

地域別の完成品販売状況です。

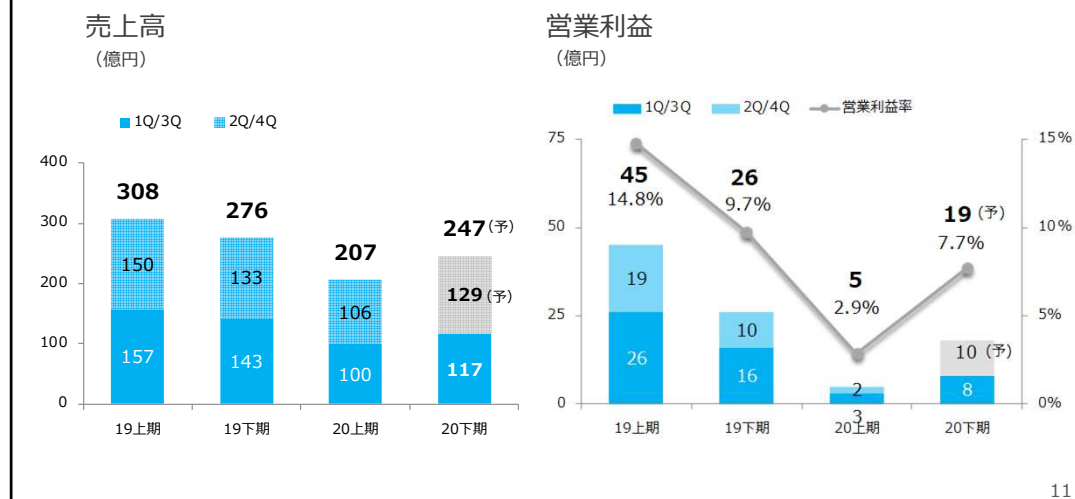
国内は赤の折れ線ですが、インバウンド需要の消失と内需の低迷を受け、回復は緩やかなものに留まっています。

北米は青の折れ線です。実店舗販売は停滞していますが、EC販売は直販サイトを含め好調に推移しています。

欧州は紫色の線です。ロックダウンが各地で実施される厳しい状況ではありましたが、ドイツ、イタリアなどが健闘し、比較的落ち込みを抑えられています。

アジアは黄緑色の線です。中国のシングルデーなどのECイベントが活況を呈するなど、アジア全体では前年に近い売上まで回復をしました。

- 国内市場：設備投資への慎重姿勢が継続も底打ち感は見られる
- 海外市場：中国が好調に推移した他、欧州も健闘し回復傾向

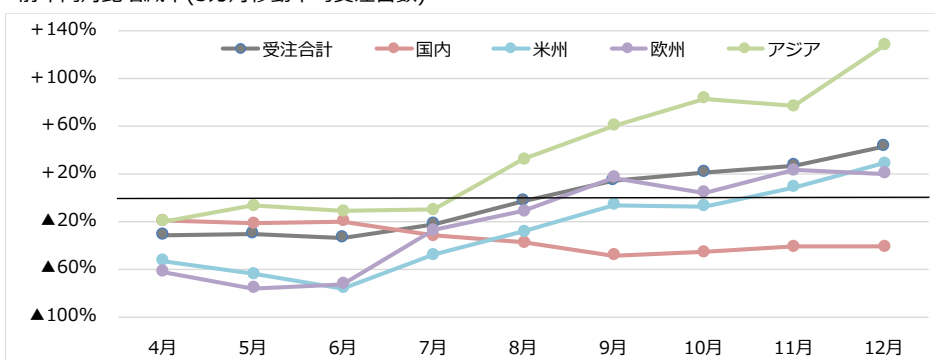


工作機械事業の第3四半期(10-12月)の概況を説明いたします。

国内は、自動車関連の操業度は回復したものの、設備投資への慎重な姿勢が継続し、売上が伸び悩みました。

海外は、中国がIT関連を中心に好調に推移したほか、欧州向の売上が増加したため製品ミックスが改善し、見通し比で利益は上振れました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 前年同期比増減率(四半期受注台数)

	1Q	2Q	3Q	
● 受注合計	▲34%	+14%	+43%	中国市場を中心に回復基調が継続。欧州、米州の受注も上向き
● 国内	▲20%	▲48%	▲41%	自動車関連で引き合いが開始したが、設備投資への慎重姿勢が継続
● 米州	▲76%	▲6%	+29%	新型コロナウイルスの影響で見送られていた医療関連需要が回復し、堅調に推移
● 欧州	▲72%	+17%	+20%	自動車関連は低調に推移しているものの、医療・油圧機器関連が堅調
● アジア	▲11%	+60%	+128%	中国において主にIT・自動車関連が伸長。その他アジア地域も回復基調

12

続いて、地域別の受注状況です。  
海外向の受注が急回復しています。

黄緑の折れ線は、中国／アジアですが、スマートフォンや5G関連に加えて、自動車向設備の受注も増加しています。

薄紫の折れ線は、欧州です。自動車関連の投資にまだ勢いが無いものの、幅広い業種で設備投資が再開され、受注が大幅に増加しました。

水色の折れ線は、米州ですが、販社の在庫調整も一巡し、また、手術の再開に伴い医療関連の受注が好転したため、年末に掛けて急回復しました。

赤い折れ線は国内になります。唯一、回復のペースが遅い地域で、顧客の設備稼働率は上昇していますが、投資の様子見姿勢が続いています。ただし、第2四半期よりは受注額が上向いています。

以上のように、受注の上振れを受け、第4四半期の業績予想を引きあげています。

LFV(低周波振動切削)技術 ※1

- 2013年からLFVを搭載した工作機械を販売開始し、2020年10月に累計出荷台数2,500台を達成
- 2021年7月にはタレット刃物台に初めてLFVを搭載したミヤノ「ANX42SYY」を発売開始予定
- LFV対応機種 10機種へ



ミヤノ「ANX42SYY」

※1 LFV(低周波振動切削)技術：シチズン独自の制御技術により、サーボ軸を切削方向に振動拳動させ、切削中に刃物があたらない「空振り」する時間を設けることで切りくずを分断させる加工技術。これにより切りくずに関するさまざまな課題を解決し、生産性の向上に貢献。

摩擦接合技術 ※2

- 2020年11月から摩擦接合技術による残材削減機能を搭載したシンコム「L32」を発売開始
- 日刊工業新聞社 第63回「十大新製品賞 モノづくり賞」受賞(2016年「L20-LFV」の受賞以来、4年ぶり5度目の受賞)



シンコム「L32」

※2 摩擦接合技術：摩擦熱により材料を軟化させ、さらに強い圧力を加えることにより材料同士の接合を行うシチズンの独自技術で加工後に残る残材を大幅に削減。材料コストの削減および環境負荷に貢献。

続いて、工作機械事業の取り組みに関するトピックスをご紹介します。

1つ目は、LFV技術についてです。

LFVはシチズン独自の制御技術ですが、切りくずに関するさまざまな課題を解決し、生産性の向上に貢献することから、お客さまに高く評価されており、昨年10月に累計出荷台数2,500台を達成いたしました。

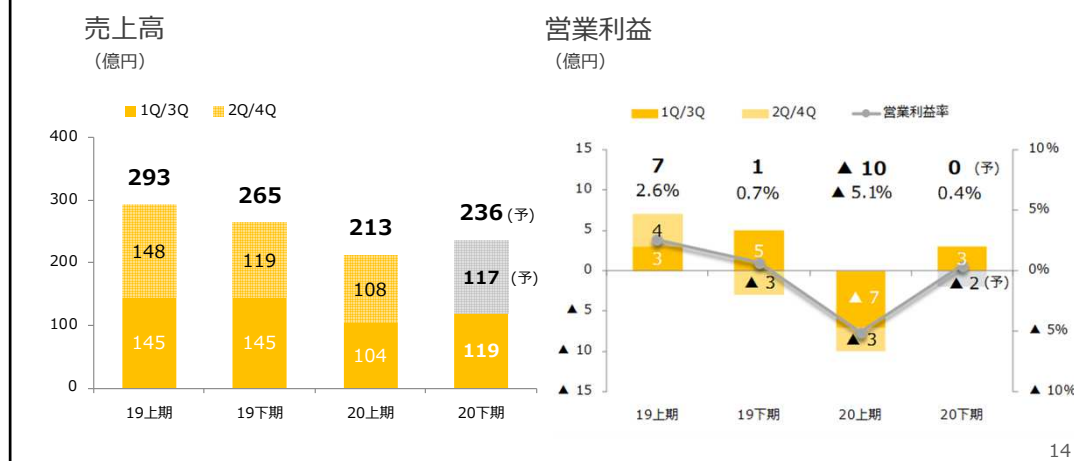
今年の7月にはミヤノ機の新製品を発売開始予定です。

2つ目は摩擦接合技術についてです。

摩擦熱により材料を軟化させ、圧力を加えることで材料同士の接合を行うシチズンの独自技術で、加工後に残る残材を大幅に削減し、材料コストの削減および環境負荷に貢献する技術です。

昨年11月から摩擦接合技術を搭載したシンコム「L32」を発売開始しました。

- 精密加工部品：自動車部品は市場回復に伴い、増収  
スイッチは減収となるも受注は回復傾向
- オプトデバイス：照明向け、車載向けLEDの販売が伸び悩む



最後に、デバイス事業の第3四半期(10-12月)についてご説明いたします。

精密加工部品のうち、自動車部品は新車販売台数の回復に伴い、前年比、増収増益に転じました。スイッチは、まだ前年比減収ですが、計画は達成しており、受注は回復傾向にあります。

オプトデバイスのうち、照明用LEDは、需要減退により、売上が低迷し依然厳しい状況が続いています。一般LEDも、車載向の回復力が弱く、減収となりました。

その他部品のうち、水晶デバイスは通信機器向け需要の増加により、増収となりました。

第4四半期につきましては、大幅な好転は見込めないものの、自動車部品の好調が継続する見込みです。

以上で説明を終わります。

**CITIZEN**